

大果で食味と外観が優れる

中生の黄色リンゴ新品種「もりのかがやき」

我が国では、果皮が赤いリンゴ品種の栽培が多く、黄色品種の栽培は少ないのが現状です。一方で、生産者の間では、葉摘みや玉回しなどの着色管理が不要な黄色品種への関心が高まっています。現在、黄色品種として早生の「きおう」、中晩生の「シナノゴールド」や「王林」が市場に流通していますが、その間をつなぐ中生品種が不足しています。そこで、(独)農研機構果樹研究所では、中生品種で外観と食味が優れる黄色のリンゴ新品種「もりのかがやき」を育成したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 果実重は 370 g 程度と「ふじ」より大きく、果形は円形です。果皮は黄色で陽光面の赤い着色は少なく、果面のさびの発生も少ないため、無袋栽培でも果実の外観はきれいです。果肉は黄白色です (写真)
2. 糖度は 15% 程度で「ふじ」より高く、酸味は「ふじ」より少ないです。食感は歯ざわりが良く、多汁で、芳香があります。食味は優れており、ばらつきが少なく安定しています。
3. 樹勢は中程度で、樹姿は開張性です。開花期は育成地の岩手県盛岡市で 5 月中旬で、「ふじ」とほぼ同じです。収穫期は 10 月中下旬で、「ふじ」より約 3 週間早く収穫できます。また、安定して結実し、豊産性です。
4. 斑点落葉病には抵抗性です。黒星病には罹病性ですが、通常の薬剤散布により被害を回避できます。



写真 「もりのかがやき」の結実状況と果実

☆ 活用面での留意点

1. 北海道、東北から北信越にかけてのリンゴ栽培地域で栽培できます。
2. 収穫期に裂果や落果が発生することがありますが、その程度は比較的軽く、大きな問題にはなりません。また、地域や年によって果肉の褐変症状が発生することがあります。
3. 詳細については、(独)農研機構 果樹研究所 リンゴ研究チーム (TEL : 019-645-6154) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦)